



矢島町との交流

平和不動産
代表取締役社長

つちもと
土本

きよゆき
清幸

秋田県と山形県に跨りそびえる単独峰が鳥海山。四季折々に見せる美しさから出羽の富士と呼ばれている。その秋田県側の山麓に矢島町はある。人口6,000人ほどの町だ。平成17年に近隣の1市6町と合併し由利本荘市の一部となるまでは、100年以上にわたりどこも合併をせずにきた珍しい地歴を持つ町である。ミスター警視庁と呼ばれた土田国保さんを長兄とする土田3兄弟の出身地でもある。

その矢島町の人々との交流が始まったのは平成16年のことだ。当時勤務していた会社で植林活動をするようになった。一本一本の木を大事に育て大きな森に成長させていくことと、上場会社一社の成長をサポートし全体としてマーケットの成長につなげていくことは理念的に共通するところがあるとの考えから始めたものだった。

それまで植林の経験などなかったが、地元森林組合の方々の指導のもと、社員とともに、上場会社の数だけ苗木を植えた。「上場の森」と名付けた。ひと汗かいた後は地元関係者との懇親バーベキューパーティー。「日本橋三越でも販売されてる！」という地元自慢のA5ランクの由利牛を食しながらの一杯は格別だ。話も弾む。バーベキューだけでは飽き足りず、夜の懇親会へとなだれ込む。米どころのお酒といえば日本酒。町内に2蔵、天寿酒造、佐藤酒造。「まんず飲んでけれ」といわれるままに杯を重ね、懇談はますます弾む。このころになると皆さんすっかり秋田弁となり、私にと

っては時々フランス語よりも難しかった。

その後毎年秋に矢島町に伺うことが恒例行事となった。2年目からは地元の小学校で社会科の出前授業をお

願いされた。純真な瞳の小学生を前に話をすることは新鮮だった。その後、彼ら、彼女らが中学生になったころには修学旅行の際に兜町を訪問してくれた。

毎年、植樹、バーベキュー、夜の懇親はセットだ。その合間にお墓参りもさせていただいている。時は流れ、いまでは最初の年に植えた苗木は5メートルを超えるまでになった。交流も深まり、毎年正月に開かれる「在京矢島会」からもお声がかかるようになった。

新型コロナウイルス感染拡大防止対応で昨年からは矢島町に行けていない。東京への修学旅行も中止、在京矢島会も開かれない。寂しい限りである。職業柄いうのではないが、オンラインだけの交流には限界がある。収束後は、かの地を訪れ、フェイス・トゥ・フェイスの交流を復活させたいと切に願っている。

